

私とおの100 ～ 1、2、完歩をプロデュース ～

ボランティア精神に溢れているわけでもなく、子どもを無条件に好き！といったわけでもなく、大学では農学をチョイスした私にとっておの100は文字通り畑違いなのかもしれないと何度も思いました。しかし大学2年生で参加した第4回から3年間、夏に向かう季節はいつもおの100に焦がれていました。いつもそこには笑って迎えてくれる仲間がいました。修了生として振り返る時が来るなんて不思議な感覚ですが、3年間の大学生活と現在の自分のあり方についての考え、そして将来プランにおいても大きな影響を受けたおの100へ、私なりの感謝を込めて記させてもらいます。

おの100は「小学生が100キロ歩く」という本番がインパクト大ですが、本番を迎えるにあたって事前の3ヶ月、毎週研修で勉強します。この研修こそ、これまでただなんとなく日々を過ごしていた私に熱い気持ちを蘇らせてくれました。研修の内容についてまず印象的だったのは「日々成長」ということです。私はそれまで、何かをやり遂げたあとに、必然的に成長がついてくるものだと思っていました。しかしそうではなく、成長して本番を迎えよう！つまり日々成長することができる、と知れたことは、うまくいった日もそうでない日も、そしてそんな日々を積み重ねてきた今の自分と今日を大切にしていこう、と思えました。また、おの100では、各自の成長率をみられます。他のメンバーを見てしまうと、自分はどうかと悲観してしまうこともありましたが、そんなとき救ってくれたのも「出来る 出来る 必ず出来る」というおの100で学んだ言葉でした。

本番も、もちろんとても印象的です。輸送・宿泊&レク係だった1年目は先輩の後ろをついていだけでした。うまく盛り上げきれなかったレクの後、夜のプールに係メンバーと、泳ぐ気力もなくなただ浸かったことを思い出します。隊列から離れた子どもを本隊に戻すセーフティネット係だった2年目は、役割的に小学生と近くなったことで今まで自分が生かされてきたことに気が付きました。子どもたちが寝た後、係メンバーと外で寝転がって、近所迷惑にならないように笑いを殺しながら見たきれいな星空を忘れません。3年目の班付きリーダーは、事業の主役である小学生に一番近いところで、これまでおの100で学んだ感謝の念を伝えたいと思って挑みました。しんどい徒歩と、楽しい宿泊地。楽しいとはしんどいことがあるから相対的なものだと思っていました。しかし、本番、私自身が歩行中に楽しくなさそうだから子ども達も楽しくないだろう、といわれたのをきっかけに認識が変化し、歩行中も楽しくやらせてもらった結果、私自身も本当に楽しい100キロでした。もっともっと子どもたちにたくさん感じてほしいことはあったのに、子どもたちと学生リーダーに私が教えられてばかりでした。まさに一生勉強です。

社会に出ることは楽しみでもありますが不安でもあります。けれどもいつでも自分の人生は自分が主役で楽しんでいきたい、と思わせてくれた大好きなおの100と愉快的仲間たち、社会人スタッフの方々、キラキラ子どもたち、支えてくださる地域の方々、すべての出会いに感謝してこれからも生きていきたいと思えます。ありがとうございました！